

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲 ㊦ 第	号	氏名	庄司真弓
論文審査担当者	主査 産婦人科学	田中 守		
	産婦人科学	青木 大輔	精神神経科学	三村 將
衛生学公衆衛生学	武林 亨			
学力確認担当者：河上 裕			審査委員長：青木 大輔	
			試問日：平成29年 6月 1日	

(論文審査の要旨)

論文題名：Sexual Satisfaction of infertile couples assessed using the Golombok-Rust Inventory of Sexual Satisfaction (GRISS)
(不妊外来に通院するカップルにおけるGolombok-Rust Inventory of Sexual Satisfaction (GRISS)によるセクシャリティの客観的評価法の開発)

不妊治療によるストレスが不妊カップルのセクシャリティに与える影響を客観的に調査・分析するため、質問票 (GRISS: Golombok-Rust inventory of sexual satisfaction) を作成し、男女双方のセクシャリティの評価を行った。その結果、不妊治療の開始により、男女とも特に精神的要素の悪化が示された。また、35才以上の不妊治療群の男性で、無治療の妊娠群の男性に比較してセクシャリティは有意に低下し、不妊治療が女性よりも男性に大きなストレスを与えることが明らかとなった。

審査では、アンケート調査の回答率及び回収率が調査結果へ与える影響について質問された。これに対し、カップル間の性生活についてオープンとはいえない日本人の国民性を考えると、調査に非回答の群のセクシャリティが低い可能性が否定できず、質問形式について改善の余地があると回答された。対照群としては、自然妊娠群でなく、不妊治療後の妊娠群を使用すべきではとの質問がなされ、本研究ではアンケート調査の性質上、不妊治療後の妊娠症例を十分確保することが困難であったが、対照の設定は今後の検討課題であると回答された。次に、調査・分析の手法としてGRISSを用いた理由、オリジナル変換テーブルの適用妥当性並びにパイロットスタディについて質問された。申請者は不妊外来の臨床現場においてセクシャリティの重要性を感じ、本研究ではセクシャリティに特化するため当該手法を選択したと回答された。次に、事前にオリジナルの変換テーブル製作者と当該テーブルを日本の回答者に適用することの正当性が検討され、国民性によるセクシャリティの違いを考慮してもオリジナルの使用が妥当であることを検証していると説明された。さらに、パイロットスタディでは看護師、弁護士など多様な職種を対象とし、第一母国語が英語且つ日本語に精通している者、第一母国語が日本語且つ英語に精通している者の双方から回答を得、両言語間での祖語の有無などチェックがなされ、本研究へのGRISS適用の妥当性を確認していると回答された。次に、年齢差や挙児希望への温度差などカップル間での影響の検討の必要性について質問がされた。本研究の対象では、特にカップル間で大きな年齢差も存在しなかったため、カップル間の分析は行っておらず、今後の課題であると回答された。さらに、本研究対象の不妊群における器質的疾患の影響の考慮について質問がされた。GRISSの質問とは別に補助質問票を用意し、不妊症に関連する既往歴については回答を得ており、特に影響は認められなかった旨説明がされた。

以上、本研究には今後さらに検討すべき課題が残されているものの、不妊治療におけるセクシャリティの低下を客観的に評価・分析し、今後の不妊治療の成績向上に有用な知見を提供した点において臨床的に有意義な研究であると評価された。